旬刊　高速道路（発行所：全国高速道路建設協議会）
2025年（令和7年）12月25日（木）　第1991号　　第４面

サステイナブル・インフラ研究センター

阪大で設立記念シンポジウム

社会インフラの老朽化や気候変動・災害リスクに対応する産官学連携の研究機関として今年8月、大阪大学大学院工学研究科内に誕生した「サステイナブル・インフラ研究センター」は11月11日、これを記念したシンポジウムを大阪・吹田市のキャンパス内で開催。定員の150人が聴講した＝写真＝。

貝戸清之センター長

「インフラの老いを考え、都市の老いを防ぐ」をテーマにしたシンポジウムは冒頭、センター代表者による挨拶と趣旨説明が行われ、社会基盤インフラの持続可能性確保とレジリエントな都市形成に向けた研究の方向性が示された。

その後のプログラムでは、行政、学術、企業の各界から招聘された8人の講演者による基調講演や特別講演が行われた。講演では、先進的なインフラマネジメント手法、老朽化予測技術、地域インフラ群の最適管理の重要性などが紹介され、技術と政策両面からのアプローチが共有された。

研究センター長を務める貝戸清之阪大教授は、センターの役割や今後の課題を紹介。「科学と政策の好循環を達成し、インフラ群マネジメントへ貢献する必要性」を解説。また、阪大に高速道路学共同研究講座を設置しているNEXCO西日本の大城壮司技術環境部長が、阪大との共同研究について報告。「共同研究講座で得られた成果をセンターにも反映し、より広い形で社会基盤の維持管理に貢献する必要がある」と強調した。

約4時間にわたるシンポジウムを運営した事務局では「社会基盤施設の維持管理と地域社会の発展に貢献できるよう、新技術の社会実装に積極的に取り組んでまいりたい」と語った。